創業70年 漁網、スポーツ用ネットを製造する老舗の網地メーカー

片岡製網株式会社

本社外観

企業概要

代表取締役
片岡 宏朗氏

所在地	三重県四日市市楠町北五味塚1510-68 TEL:059-397-3191　FAX:059-397-6135
設立	1949年(昭和24年)4月
資本金	1,100万円
従業員数	40名(2023年8月現在)
事業内容	スポーツ用ネットの製造販売、漁網の製造販売
URL	https://kataoka-3.wixsite.com/kataoka

スポーツ用ネットで知られざるニッチトップ企業

強度が高く、軽い「無結節網」

鈴鹿川と伊勢湾に囲まれた四日市市楠町は、恵まれた水資源と地の利を生かし、古くよりハマグリ養殖や紡績などが栄えてきた土地である。ここで漁網やスポーツ用ネットなどの網地(仕立て前の半製品の網)を70年以上つくり続ける会社が片岡製網株式会社だ。

同社がつくる網地は「無結節網」と呼ばれる結び目がないタイプのもの。結び目のある「有結節網」に比べ流通量は少ないものの、「強度が高い」、「軽量で省スペース」、「摩擦抵抗が少ない」という特徴がある。

近年、ゴルフ場や球場のグラウンドネット、サッカーのゴール用ネット、テニスコート用ネットなどが有結節網から無結節網に代わっていることにお気づきだろうか。同社はスポーツ用の無結節網の生産量が多い。

創業当時から製造している沿岸用雑刺網

創業者の思い切った決断

戦前は酒造りの盛んな同町で酒造を営んでいた片岡家。1949年、現社長の祖父である片岡善治郎氏が地場産業の漁網製造業へ転換した。ただ、漁網製造業としては後発であったため他社との差別化を図るべく、現社長の父である片岡保輔氏が当時まだ珍しかった無結節網に目をつけた。無結節網は有結節網に比べて10倍の設備投資が必要となるため参入する会社は少なかったが、先代はいち早くチャレンジ

スポーツ用ネット

することにしたという。「無結節製網機は非常に複雑な構造の特殊な機械であり、その編網機メーカーが近くの桑名市にあることで助けられている」と片岡宏朗社長は話す。

現在、同社がつくる無結節網は陸上用が8割、漁網用が2割を占める。多くの製網会社が漁網を主力製品としてきた中、同社は早くからスポーツ用ネットに取り組み、約50年の実績がある。

創業者のこのような思い切った決断が功を奏することとなる。1990年代に入ると、有結節タイプの漁網を使用する一部の漁法が世界的に禁止となったためだ。これがきっかけとなり、無結節網が漁業界に広まることとなる。結び目がない無結節網は魚を傷つけず、軽量で、耐久性があると評価も高まった。

撚られる前の原料糸

高い生産能力で網地製造に特化

同社が導入した製網機で製造する無結節網の製造にチャンスを見出した片岡製網は、完成品をつくる仕立て加工はせず、加工前の網地（半製品）製造に特化している。

網地の製造工程は大まかにいうと、①原料糸を撚（よ）る、②編網機で織る、③染色、絞りなどの加工を施す、④熱処理で成形する、⑤検査するという流れをたどる。同社は全工程に対応できるよう、撚糸、編網、熱処理などの設備を3ヶ所ある工場すべてに整えた。現在、稼働している無結節用編網機は合わせて17台にのぼるといい、同社の生産能力の高さがうかがえる。

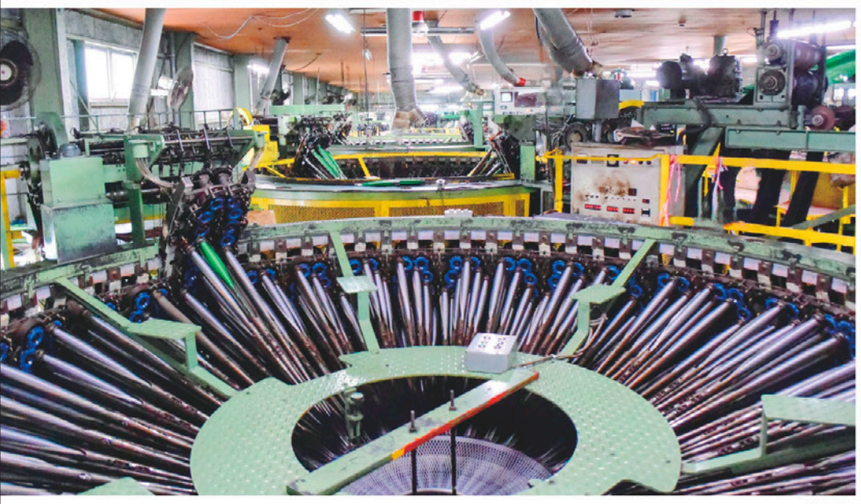
対応できるオーダーの範囲も広く、網地の太さは1～7ミリ、織りの種類は複数可能。片岡社長は「1ミリの太さの網地を製造できるところは自社以外にない。それは設備と職人の技術力の差によるもの」と自信を見せる。「気通貫で製品を製造できることから、納期や製造コストも他社より2～3割ほど縮小できているといい、「例えば5日後に納品してほしいといった超特急の依頼にも応えることが可能」と話す。

ものづくりの喜びを感じてほしい

大手製網メーカーからも同社の信頼は厚く、「片岡さんならできるのでは」と相談や委託を受けることもあり、さまざまな仕事が舞い込む。時には困難なオーダーが届くこともある。期待に応えるのはさぞ大変だと思われるが、「チャレンジするのが楽しい」と片岡社長は満面の笑みで答える。

顧客からの注文をかたちにするのは、職人ともいえる社員だ。社員の平均年齢は30歳以下と若く、地元高校を卒業後に同社に就職する若者が多い。「一連の工程をすべてこなす一人前の職人になるまでには10年かかる」という厳しい世界だが、彼らはベテラン職人の丁寧な指導を受けながら熱心に仕事に取り組み、日々技術向上に努めている。

国内漁業の不振を背景に、同業者が次々と撤退していく中、「高品質・短納期・量産」を武器に片岡製網は楠町で唯一残る製網メーカーとなった。また、事業の柱であるスポーツネットはプロスポーツや国際大会でも使用されるなど、その存在感を高めている。片岡社長は仕事に誇りを持ってもらいたいと考え、自分たちが作った製品がどのようなところで役立っているかを社員に語るようにしている。街で製品を見かけることで徐々にものづくりの喜びに目覚め、それが「もっといいものを作りたい」という探究心につながっていく。


製網機

目指すは海外市場の開拓

真摯なものづくりへの態度は、扱う素材にもあらわれている。スポーツ用ネットは長年、再生利用可能なポリエチレン製を中心に扱ってきた。今後は「リサイクル素材を使った網地の製造にも挑戦したい」と抱負を語る。

海外では〝ラッセル網〟と呼ばれる別のタイプの無結節網が流通しているが、同社が導入した製網機で製造する無結節網は全く構造も強度も違う。ラッセル網はレースのようにループを編んでいくため、掛目が多くとれ柔らかいという利点があるが、反面、重量があり、藻や貝が付着しやすいなどの欠点もある。対して、無結節網は2本または3本の撚糸を互いに交差させて編網するため、軽量である。

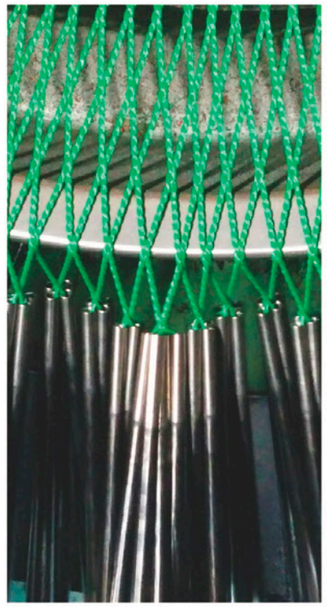
海外には無結節網と同じ品質の網を製造できる編網機メーカーがないため、特に漁業が盛んなEU、北欧、アメリカには日本製の無結節網の需要があると予測している。実際にさまざまなところからの引き合いがあり、大手商社とのつながりも生まれた。これまで海外取引はあまり行ってこなかったが、片岡社長は次なる目標を「海外市場の開拓」と定めている。

最近は工場におけるCO_2など地球温暖化ガスの排出削減にも積極的に取り組む。ゆくゆくは国際的な削減目標であるSBT（Science Based Targets）の認証取得も目指す。

片岡社長は「父は私が22歳の時に亡くなった。いつも父への感謝があり、そして、いつでも父が『頑張れ』と私を支えてくれている。社員たちと取引先の助けがなかったらここまでは来られなかった。本当に感謝している」と語る。

創業当時から地域の強みを生かし、ニッチかつ大胆に挑戦しつづけてきた片岡製網。三重県企業の質の高いものづくりが国内だけでなく世界へと羽ばたくことを願ってやまない。

編＝会員事業部　中嶋 理可


スポーツ用ネットの網目

支店より一言

片岡製網さまは、スポーツ用ネットでの圧倒的なシェアを誇るなど、三重県の地場産業である「製網」を、全国レベルで展開されています。

市場規模が縮小するなか設備投資を継続されるなど、技術伝承へのこだわりを貫き続ける「チャレンジ精神」に深く敬服いたします。

フロンティアバンキングである当行にとって、地場産業の発展や海外市場開拓のサポートは使命であり、今後も全力で応援させていただきます。

百五銀行 楠支店長
松本 晃